

平成二十九年五月十四日（日）午前九時半始

福岡市中央区大濠公園一一五

於 大 濠 公 園 能 樂 堂

電話 ○九二（七一五）二一五五番

三十回記念

初陽会

主催 武田宗宗和典初陽会

東京都新宿区富久町四〇一四

御来場歓迎
入場無料

※開演中の写真撮影・録音等は固くお断り申し上げます

電話 ○三（三三五九）二七八三番

御 挨 拶

陽春の候、皆様にはご清祥のことと存じます。

さて、福岡初陽会もお陰様にて三十回を迎えることができました。昭和六十年十月より故小宮利一師のあとを受け稽古に伺うようになり、昭和六十三年に第一回の初陽会を催させて頂きました。

それより今日まで続けられましたのも、会員各位のご努力の賜物と心より感謝致しております。

今回は記念の会でもあり、第一回より並々ならぬ御尽力を戴いております岩本様に「石橋」の番囃子をお願いし、「鷗鷺小町」の廣田様を始め、重習も数番入る番組となりました。私も舞囃子「老松」をお祝の心を込め勤めさせて頂きます。

会員一同当日に向け稽古に励んでおります。御知友お誘い合わせ頂きご来場賜りますようお願い申し上げ、御挨拶とさせて頂きます。

武 田 宗 和

番組

素謡

雲林院

シテ藤木早苗

ワキ武田文志

地謡

敦盛

シテ瀬来玲子

ワキ武田宗典

地謡

士子方武田章志
シテ玉井美登利

ワキ鷹尾章弘

地謡

海

シテ瀬来玲子

地謡

弱法師

シテ石川るみ子

地謡

笠之段

後藤美香

地謡

仕舞
素謡

ワキ鷹尾維教

地謡

花

ツレ木月晶子
シテ中原伯子

ワキ山本章弘

地謡

藤

シテ平野敦子

ワキ坂口貴信

地謡

武武武武
田田田田
文宗友祥
志典志照

筐
シテ中原伯子

ワキ武田祥照

地謡

松武武鷹
木田田尾
千宗尚章
俊和浩弘

佐武坂多
川田口久島
勝宗貴法
貴典信子

地謡

石

望

求

高

江

口 岩本美智子

大鼓白坂保行
小鼓鶴澤洋太郎

地謡木月晶子

藤田貴寛

舞囃子

橋

シテ岩

本美智子

大鼓白坂保行
小鼓鶴澤洋太郎

地謡笛藤吉

武岡武武武
田田田田
文久志友宗
志広房志典

番囃子

間野村万禄

月子方武田章志
瀬シテ八坂京子
尾律子ワキ武田尚浩

地謡

(二時半頃)

塚ツレ多久島法子

ワキ岡

久広

地謡

武武山佐
田田本川
宗宗章勝
典和弘貴

素謡

砂篠田いつ子

大鼓白坂保行
小鼓鶴澤洋太郎
地謡笛藤吉

松武尾千俊
木田宗和教

谷貴寛潔

八段之舞

鷹尾章勝弘

藤田貴寛潔

武尾維俊
木田宗和教

谷貴寛潔

岡武山本
久宗和弘

梅

素 謠

シテ篠田 いつ子

ワキ松木 千俊

地謠

武武坂
田田口
尚志貴
浩房和信

舞囃子

石川 るみ子

大鼓 鵜澤 白坂 保行
小鼓 鵜澤 洋太郎 太鼓 吉

地謠 武田宗典 笛 藤

岡山 本章弘
久広和弘

砧 後

須磨源氏

瀬尾 律子

大鼓 鵜澤 白坂 保行
小鼓 鵜澤 洋太郎 太鼓 吉

地謠 木月 晶子 多久島 法子

岡山 本章弘
久広和弘

須磨源氏

瀬尾 律子

大鼓 鵜澤 白坂 保行
小鼓 鵜澤 洋太郎 太鼓 吉

地謠 木月 晶子 多久島 法子

岡山 本章弘
久広和弘

素 謠

鸚鵡小町

シテ廣田 瞳子

地謠 武田志房

武岡松木

鸚鵡小町

シテ廣田 瞳子

地謠 武田志房

武岡松木

番外

仕舞

百萬

クセ

仕舞

武田宗典

地謠

坂武武
口田田
貴友文祥
信志志照

祝言

老

松 武田宗和

大鼓 鵜澤 白坂 保行
小鼓 鵜澤 洋太郎 太鼓 吉

地謠 武田宗和

佐川勝貴照

松武鷹尾
木田千志
俊房教
寬潔

(終了予定 午後五時)

※時間の都合により左記の通り素謡の一部を省略させて頂きます

雲林院 ワキ下歌・上歌、及ビサシ・クセ

敦盛 ワキ道行、及ビクリ・サシ・クセ

海士 ワキ下歌・上歌、及ビクセ

弱法師 クリ・サシ・クセ

花筐 ～君と住む、～こがれ行く、及ビワキ～いかに狂女ヨリ省キ
クセアト～宣旨にてあるぞ～

藤戸 ワキ道行、住み果てぬ及ビクセ前半

塚 ワキ道行、ロンギ及ビ～されば人

望月 ツレサシ・下歌・上歌、及ビクリ・サシ・クセ前半

求橋 省略ナシ

梅石 ワキサシ・下歌・上歌、及ビクリ・サシ・クセ

鷗小町 シテノ出ヨリ始メクリ・サシ・クセ